保険・年金フォーカス

中国保険市場、米国に次いで2位に？
－世界における中国のプレゼンス

【アジア・新興国】　中国保険市場の最新動向（24）

保険研究部　准主任研究員　片山　ゆき
(03)3512-1784　katayama@nli-research.co.jp

世界における保険マーケットの規模は、長らく、米国が1位、日本が2位、英国が3位であった[1]。新興マーケットである中国が3位に浮上したのは2015年であるが、ここに至って、2016年は、日本を抜いて2位になったのではないか、と中国国内で話題になっている。この発言が、主務官庁の元ナンバー2によるものとなれば、関係者の期待は高まるばかりである。

中国保険監督管理委員会（保監会）の発表によると、2016年の収入保険料（生損保合計）は前年比27.5%増の3兆1,000億元（52兆円）[2]。為替の影響なども考慮すると、簡単に横並びで比較はできないが、その成長ぶりには世界の市場を牽引する勢いも感じられる。以下では、そんな世界における中国の保険市場のプレゼンス―特に、生保市場の直近の動きを中心に、ご紹介したい。

1－中国保険マーケットのプレゼンス向上

2015年を振り返ると、世界における中国の保険マーケットのシェアは8.5%で、国・地域別では3位であった（図表1）。2005年のシェアが1.8%で11位であったことを考えると、この10年間で規模、ポジションとも飛躍的に向上したことがわかる。

図表1－世界市場におけるシェアトップ5の国・地域（2015年／保険料収入ベース）

生保・損保（全体）				生保				損保			
	国・地域	世界市場に占めるシェア	保険ボリューム前年比増減率（インフレ調整後）		国・地域	世界市場に占めるシェア	保険ボリューム前年比増減率（インフレ調整後）		国・地域	世界市場に占めるシェア	保険ボリューム前年比増減率（インフレ調整後）
1	米国	28.9%	3.5%	1	米国	21.8%	3.9%	1	米国	37.8%	3.1%
2	日本	9.9%	2.9%	2	日本	13.6%	2.8%	2	中国	8.7%	16.6%
3	中国	8.5%	18.3%	3	英国	8.5%	2.4%	3	ドイツ	5.8%	2.0%
4	英国	7.0%	2.1%	4	中国	8.3%	19.7%	4	日本	5.2%	3.1%
5	フランス	5.1%	2.4%	5	フランス	5.9%	2.9%	5	英国	5.2%	1.5%
世界平均			3.8%	世界平均			4.0%	世界平均			3.6%

（注）上掲の中国に香港、台湾は含んでいない。
（出所）Swiss Re「sigma－World insurance in 2015」

Copyright ©2017 NLI Research Institute All rights reserved

保険ボリューム（収入保険料）をみると、中国は、生保・損保（全体）で 2014 年比 18.3%増（インフレ調整後）と、上位 4 カ国・地域、また世界平均をもはるかに凌いでおり、世界における成長エンジンとしての役割を担ったといえよう。ただし、損保のシェアは、すでに米国に次いで 2 位であるが、生保市場については、2 位の日本（13.6%）と中国（8.3%）の間にまだ大きな開きがある。保監会は、2014 年時点で、10～20 年をかけて世界第 2 位を目指すとしていたが、マーケットの規模のみであれば当初の予定よりもだいぶ前倒しとなりそうだ。

2－Fortune Global 500 社－中国の保険会社が 6 社ランクイン

このような成長の勢いは、中国の保険会社の世界におけるポジションにも表れている。米フォーチュン社による Fortune Global 500 社のランキング（売上高ベース）を見ると、2016 年は米国の 134 社に次いで、中国の企業が 103 社となった[3]。そのうち、中国の保険会社が合計 6 社ランクインしている（図表 2）。

図表2－Fortune Global 500 社における中国の保険会社（2016 年/2015 年）

2016年	2015年	会社名		国有／民営	売上高（百万ドル）	収益（百万ドル）
41位	96位	中国平安保険(集団)	PING AN INSURANCE	民営	110,308	8,625
54位	94位	中国人寿保険（集団）	CHINA LIFE INSURANCE	国有	101,274	4,170
119位	174位	中国人民保険集団	People's Insurance Co. of China	国有	64,606	3,110
251位	328位	中国太平洋保険（集団）	CHINA PACIFIC INSURANCE（GROUP）	民営	39,336	2,821
427位	－	新華人寿保険	New China Life Insurance	国有	25,129	1,369
456位	467位	友邦保険	AIA　Group	民営	23,274	2,691

（注）台湾の保険会社を除く
（出所）Fortune Global 500、2016 年財富世界 500 強排行榜

注目すべきは、中国の保険会社がグローバルなポジションにおいても上位となりつつある点であろう。中国の保険会社の最上位は中国平安保険で 41 位であるが、これは、500 社全体のうち、保険会社をみると、アクサ（33 位）、アリアンツ（34 位）、日本郵政（37 位）[4]に次いで 4 番目となった。中国の保険会社は 6 社とも 2015 年に比べてポジションを引き上げており、今後もその傾向はしばらく続きそうだ。

また、民営の保険会社の躍進も 2016 年の特徴の 1 つであろう。6 社のうち、民営が半数の 3 社を占め、加えて、民営の中国平安保険が国有最大手の中国人寿保険を抑え、初めて上位となっている。中国平安保険は、傘下に銀行、証券事業を抱える金融コングロマリットである。中国のフィンテック、さらにはインシュアテック分野を牽引しており、その存在感はグローバルな見地からも認知されてきている。一方、中国人寿保険は、国有企業特有の構造的な課題もあって、近年、国内マーケットにおいてはシェアが下降している。2016 年は、中国の保険会社の中でも明暗を分ける結果となった。

 | Copyright ©2017 NLI Research Institute All rights reserved

3－2016 年生保市場―料率自由化で、無配当保険の販売が大幅に増加

では、保険ボリュームが飛躍的に増加している 2016 年の中国マーケットの動きはどうであったのか。

保監会によると、2016 年の生保収入保険料（医療など第三分野の保険を除く）は前年比 31.7%増の 1 兆 7,400 億元（29 兆円）であった。これは、生損保を合わせた保険マーケット全体のおよそ 6 割に相当する。

生保マーケット全体としては、2013 年以降に実施された料率の自由化が奏功し、無配当保険、有配当保険、ユニバーサル保険等、特に無配当の貯蓄型の保険の販売が増加している。2016 年も同様で、無配当保険の保険料収入は前年比 55.3%増のおよそ 1 兆元に達し、生保の商品別構成比では全体の 6 割を占めた。保監会は、近年、保険は本来もつ機能に立ち返るべきとして、各社に長期貯蓄性保険、保障性保険の販売強化を指導している。これに対して大手生保を中心に販売が進められていることが、無配当保険の販売増加に表れているのだ。

一方、2016 年に保監会が規制を強めたのが、一部の中堅生保が積極的に販売しているユニバーサル保険、ユニットリンク保険である。保監会は、これまで市場の成長の一環として静観をしていたが、それが保険会社の経営の健全性や保険資産の運用において大きなリスクを抱える事態になったため、規制の方向に舵を切ったのである。

中国では、近年、銀行の利下げ、理財商品の利回りの低下に伴い、これら金融商品と利回りが拮抗またはこれらを上回る保険商品への乗り換えが増加している。一部の中堅生保は、高利回りのユニバーサル保険等を銀行窓販、インターネットを通じて大量に販売し、その利回りを確保するために、株式への過剰な投資を行っている。投資先の筆頭株主となるべく強引なやり方が市場の反発を招いたり、海外の金融機関等を次々に買収するなど過大なリスクを短期間で抱えるなど、経営の健全性も大きな問題となっていた。加えて、短期の負債に対して長期の資産に投資するといった資産と負債のデュレーションのミスマッチや、期待したリターンが得られない場合、解約が殺到するなどの流動性リスクも抱えていた。

これに対して、保監会は、2016 年に入ると、ユニバーサル保険については短期（1 年未満など）の商品の販売を禁止し、販売に総量規制を加え、保険資産の株式への過剰投資についても制限を設けた。最終的には、業務改善ができていない会社を指名して、ネット販売の停止や、新規販売の停止を命じた。保監会は、ほぼ 1 年の時間を費やして方向性を正しており、これによって、今後事態は一定の方向に向かって収束すると考えられる。

このように、中国の生保マーケットは旺盛な需要から、収入保険料で示される保険ボリュームが急速に大きくなっている。一方、市場としてはまだ成熟しておらず、商品や販売チャネルについても経済や金融の情勢の影響を受けやすい状況にある。保険ボリューム自体は、世界においてもプレゼンスが向上しているが、保険が国民や社会に広く普及しているかといった角度から見ると、その様相は大きく異なる。

 | Copyright ©2017 NLI Research Institute All rights reserved

4－1 人あたりの保険料拠出額、GDP に占める割合は、世界平均以下

保険が国民や社会にどれくらい普及しているかを確認する上で、国民 1 人あたりの保険料拠出額、GDP に占める保険料の割合をみてみる。

中国における国民 1 人あたりの保険料拠出額（生損保合計）は 2015 年が 281 ドル、生保は 153 ドルであった（図表 3）。中国は人口が多く、地域によって経済格差が大きいこともあり、その拠出額は世界平均にさえ達していない。拠出額は、生損保合計で日本のおよそ 1／12、生保についてはおよそ 1／17 の規模である。

また、GDP に占める保険料の割合も同様に小さく、保険は広く国民に普及しているとはいい難い状況にある。これは、今後の成長余地が大きいという理解もできるが、国民が真に保険を享受できるようになるまでにはまだ一定程度の時間が必要になるであろう。

図表 3－保険の普及状況（2015 年）

国民１人あたりの保険料拠出額（USD）					GDPに占める保険料の割合				
国・地域		生保・損保合計	生保	損保	国・地域		生保・損保合計	生保	損保
1	ケイマン諸島	12,619	515	12,619	1	ケイマン諸島	20.2%	0.8%	19.4%
2	スイス	7,370	4,079	3,292	2	台湾	19.0%	15.7%	3.2%
3	香港	6,271	5,655	616	3	香港	14.8%	13.3%	1.5%
4	ルクセンブルグ	5,401	3,535	1,866	4	南アフリカ	14.7%	12.0%	2.7%
5	フィンランド	4,963	4,050	913	5	フィンランド	11.9%	9.7%	2.2%
14	日本	3,554	2,717	837	7	日本	10.8%	8.3%	2.6%
53	中国	281	153	128	40	中国	3.6%	2.0%	1.6%
世界平均		621	346	276	世界平均		6.2%	3.5%	2.8%

（注）順位は、生保・損保合計に基づく。
（出所）Swiss Re「sigma－World insurance in 2015」

今後については、直近の目標として、2020 年に「保険強国」の実現を目指している。それを示す目標値として、保監会は、保険料収入（目標値：4 兆 5,000 億元）、総資産額（25 兆元）、1 人あたりの保険料拠出額（3,500 元）、GDP に占める保険料収入の割合（5.0%）の 4 つの実現を掲げている。これは、2020 年までの 5 年間で、マーケット規模をほぼ 2 倍に拡大するというものである。急速な成長を求めるような数値目標が掲げられているとも考えられるが、これまでの前々期（2010 年実績）、前期（2015 年実績）においても同様の目標をほぼ達成している。しかし、主務官庁や国が目標値を定めるようなマーケットでは、保険会社は、目先の数値を達成するために前掲のユニバーサル保険のような問題などを引き起こしやすく、市場も不安定になりがちである。真の意味で「保険強国」として評価され、世界におけるプレゼンスを向上するためには、監督側のあり方にも大きな変革が必要であろう。

---

[1] 生命保険、損害保険の保険料収入をベースとしたマーケット規模。SwissRe Sigma による。
[2] 1元＝16.8 円（2016 年 12 月 31 日）。2016 年のデータはまだ日本など出揃っていないため不明であるが、2015 年については、SwissRe「sigma－Word insurance in 2015」によると、日本は 449,707（百万ドル）、中国は 386,500（百万ドル）であった。
[3] ニッセイ基礎研究所 平賀富一著「アジア諸国の有力企業動向」フォーチュン・グローバル 500 社ランキングの変遷から：中国企業は 100 社超がランクイン（2017 年 1 月 26 日発行）
[4] 日本郵政グループとして、かんぽ生命以外に、郵貯や郵便業務を含む。

 | Copyright ©2017 NLI Research Institute All rights reserved